

カンボジアの保育の現状と課題(1) - プノンペン近郊の幼稚園と保育園の現地調査から -

著者	安藤 美琴, 石川 佳歩, 山田 真紀
雑誌名	教育学部紀要
号	11
ページ	291-309
発行年	2018-03-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1454/00002524/

資料(Data)

カンボジアの保育の現状と課題(1)

——プノンベン近郊の幼稚園と保育園の実地調査から——

Nursery Education in Cambodia and Issues Facing It: Field Survey of Preschools in Phnom Penh

安藤 美琴*・石川 佳歩**・山田 真紀***

ANDO, Mikoto*

ISHIKAWA, Kaho**

YAMADA, Maki***

キーワード：カンボジア，幼稚園，保育園，フィールドワーク

Key words：Cambodia, Nursery Education, Preschools, Field Survey

はじめに

安藤と石川は2016年2月28日(日)～2016年3月5日(土)の1週間、カンボジアの首都プノンベンを訪問し、実地調査をした。実地調査では、プノンベン近郊の保育施設(6カ所)への訪問調査、認定NPO法人「幼い難民を考える会カンボジア」(Caring for Young Refugees in Kambodia：以下、CYKと表記)現地事務所でのインタビュー調査、国立幼稚園教員養成学校(以下、国立養成学校と表記)への訪問と幼稚園教諭を目指す学生を対象とするインタビュー調査を実施した。

本報告は2部構成となっている。第一部(本稿)では、先行研究を用いてカンボジアの保育の概略について述べたのち、主に安藤が中心となって実施した幼稚園と保育園の訪問調査から得られた知見を整理する。第二部では、カンボジアの保育者養成の実態について述べた後、主に石川が中心となって実施した、国立養成学校で学ぶ学生と、幼稚園や保育園で保育に従事する保育者を対象とするインタビュー調査から得られた知見を整理する¹⁾。

1. カンボジアの保育の現状

カンボジアの保育については、三輪千明「カンボジアの幼児教育—途上国農村部におけるアクセス拡大の方法と課題—」²⁾に詳しい。この論文によると、カンボジアでは初等教育の完全普及のための手段として、幼児教育の普及に努めており、普及のため方法として、「小学校併設幼稚園」、「コミュニティ・プレスクール」(Community Preschool：以下、CPSと表記)、「在宅プログラム」(Home Based Program：以下、HBPと表記)の3つのタイプの幼児教育の場を作り、特に農村部や恵まれない地域にある子どもにアクセス拡大を図っているという。第一の「小学校併設幼稚園」は、

* 稲沢市立保育園保育士 ** 半田市立幼稚園教諭

*** 梶山女学園大学教育学部

既存の小学校に間借りする形で幼稚園を設置するものであり、保育時間は3時間（7時または7時半～10時または10時半）、開園期間は木・日曜を除く週5日間で、開園期間は10～7月までの年38週間（計190日間）である。「小学校併設幼稚園」の多くが国立または公立であり、国立または公立の幼稚園の教諭の職に就くためには、原則、高等学校を卒業したのち、首都にある唯一の国立養成学校を修了する必要がある。第二の「コミュニティ・プレスクール CPS」は発展途上国でよくみられるタイプの幼児教育施設であり、政府、非政府組織（non-governmental organization：NGO）、非営利組織（nonprofit organization：NPO）が資金を提供し、地域住民が主体となって管理運営していくものである。地域住民のなかから適した人材が選ばれ、短期の養成研修を受けて保育者となる。第三の「在宅プログラム HBP」も発展途上国でよくみられるタイプの幼児教育のあり方であり、地域の子育て中の保護者を集め、グループのリーダーとなる保護者が代表として短期の研修を受け、乳幼児の栄養・衛生・望ましい養育環境についての基礎的知識を習得し、その知識をグループで共有してもらうことで、子育てに関する保護者の知識や能力を高め、在宅において幼児教育の場を形成していこうとする手法である。図1は同論文から転載した「カンボジアの幼児教育プログラム別の参加者数の推移」のグラフであり、これを見ると、この8年間で幼児教育へのアクセスが3倍にも広がっていることが見て取れる。

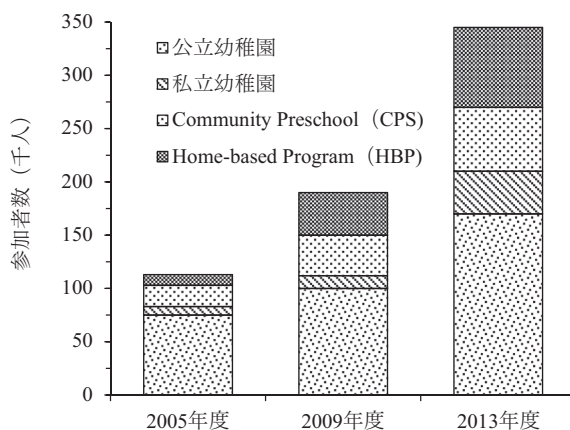


図1 カンボジアの幼児教育プログラム別の参加者数の推移
(三輪²⁾より転載)

出典：2005年度と09年度はカンボジア教育省幼児教育部作成のデータによる。2013年度の出典はMoEYS (2014b) による。

2. カンボジアの保育施設における訪問調査

カンボジアの保育施設の現状と課題を知るために、2016年2月28日(日)から2016年3月5日(土)に行った調査旅行において、6つの幼稚園と保育園を訪問し、園舎や園庭などの保育環境と保育内容・方法の観察と、保育者へのインタビューを行った。な

お、訪問した保育施設は日本の認定NPO法人「幼い難民を考える会」(Caring for Young Refugees: 以下、CYRと表記)が何等かの形で支援している園である。以下にこの訪問調査で明らかになった保育施設の現状と課題について報告したい。

(1) 村のコミュニティ・プレスクールCPS①: タプロム村幼稚園

タプロム村幼稚園の概要

住所: カンダール州カンダールスタン郡ベンキャン地区タプロム村

園児数: 3歳～5歳未満の24人(定員30人)

保育者数: 1名

保育時間: 7時～10時(幼稚園なので保育時間が短い)

タプロム村は、教育の光が届かない極貧地域であり、小学校も遠く、また村人も教育にほとんど関心がないため、学齢期になっても多くの子どもが学校へ行くことができない。CYRの援助により幼稚園を設立したものの、親は子どもの誘拐を恐れて入園させたがらず、また子どもが入園しても全く社会性が育っていないため集団活動が可能になるまで3ヵ月以上を要したという。人口265人、家族数58世帯、0～5歳児の子ども数32人であり、他の村に比べ、小規模な地域である³⁾。

写真1-1はタプロム村幼稚園の全景である。敷地内には、園舎である建物と、トイレ用の小さな建物があり、園庭には遊具として滑り台とシーソーが設置されている。園舎の前には水がめが3つあり、水浴びに利用されている。園舎といっても、床と壁はコンクリートで、窓の代わりに、空気がよく通るように、壁の側面を細い木を交差させた格子で覆っている。図2に示したように園舎の中には、保育室1つと、物置のようなスペースがある。壁際には、遊具を置く棚があり(写真1-3)、日本のNPO法人CYRから贈られた布製の人形・ぬいぐるみ・絵本が置かれていた。また壁面には、クメール語の文字表(写真1-4)、動物の写真と単語が書かれた表(写真1-5)が掲示されており、その他に数字の表も貼られていた。

我々が訪問した日は、3歳から5歳児までの園児16名が登園していた。保育者が1名しかいないため、全員が一緒に保育を受けている。写真1-2に示したように、保育者を中心に円形になって椅子に座り、保育者の真似をしながら振り付けのある歌を歌っていた。日本でいう「手遊び」のようなものである。そのあと、絵本の読み聞かせが始まり、子ども達は真剣に絵本に見入っていた。

我々は、「じゃんけん列車」の遊び方を教え、また日本からもってきた「シャボン玉」を提供し、園児と交流した。日本のシャボン玉液はきれいにシャボン玉ができることと好評で、子ども達は夢中になって遊んでいた。園庭では、サンダルを履いている子どももいるものの、半数の子どもは裸足であり、足が砂だらけになってもイキイキと遊ぶ姿が印象的であった。

(2) 村のコミュニティ・プレスクール CPS ②：バンキアン保育所

バンキアン保育所の概要

住所：カンダール州カンダールスタン郡ベンキャン地区バンキアン村

園児数：3歳～5歳未満の32人（定員55人）

保育者数：4名

保育時間：7時から15時（保育園なので保育時間が長い）

バンキアン村は、首都プノンペンから車で1時間ほどの農村地域にある村で、近くにできた縫製工場などに両親が働きに出かけるため、子どもを安心して預ける場所が求められていた。バンキアン保育園はCYRが設立して30年以上運営の続いている園であり、カンボジア国内におけるモデル園として、各地から視察や研修を受け入れている先進的な園である。人口1,374人、家族数334世帯、0～5歳児人口は157人である。

写真2-1はバンキアン保育所の全景で、図3はバンキアン保育所の敷地内のスケッチである。敷地内には、園舎の建物と調理場、トイレがあり、園庭には、遊具として滑り台・ブランコ・シーソー・雲梯（写真2-2）・砂場が設置されていて、子ども達が十分に走り回って遊べるだけの広さがある。園庭にはココナッツなどの大きな木が数本あり、それらの落ち葉を使って制作をして遊ぶこともある。また、図3の斜線になっている部分は、屋根と柱だけの建物であり、そこで暑い日差しを避けながら戸外で遊ぶことができるようになっている。園舎の横には、水がめが置いてあり、そこで子ども達は裸になり、保育者に水をかけてもらいながら水浴びをする。汗をかいたら汗を流し、清潔に過ごせるようにしているとのことである。また、給食後には歯磨きの指導をしており、子ども達には自分専用の歯ブラシが配布され、歯ブラシには名前シールがはってあった（写真2-4）。

この保育園の保育時間は7:00～15:00であり、昼食として給食も提供されている。給食のほかに栄養バランスを補うため、朝8時ごろにはおかゆが提供され、また月に2回、15時ごろにおやつとしてゆで玉子やお菓子が提供される。15時までにはほとんどの子が降園するが、15時30分になっても帰宅しない子どもがいる場合は、保育者はその子を自分の家に連れていき、そこで保護者の帰りを待つという。保育者は朝6時に出勤し、園舎を清掃し、保育の準備をし、給食の食材を市場に買い出しに行き、おかゆを作り、園児の登園を待つ。給食係専門の職員はおらず、4人の保育者が1ヵ月交代で給食作りをしているという（写真2-3）。我々は、この保育園では「紙芝居 ももたろう」を披露し、園児と交流した。



写真1-1 タブロム村幼稚園（全景）



写真1-2 タブロム村幼稚園（読み聞かせ）



写真1-3 玩具の棚



写真1-4 クメール文字



写真1-5 動物の単語

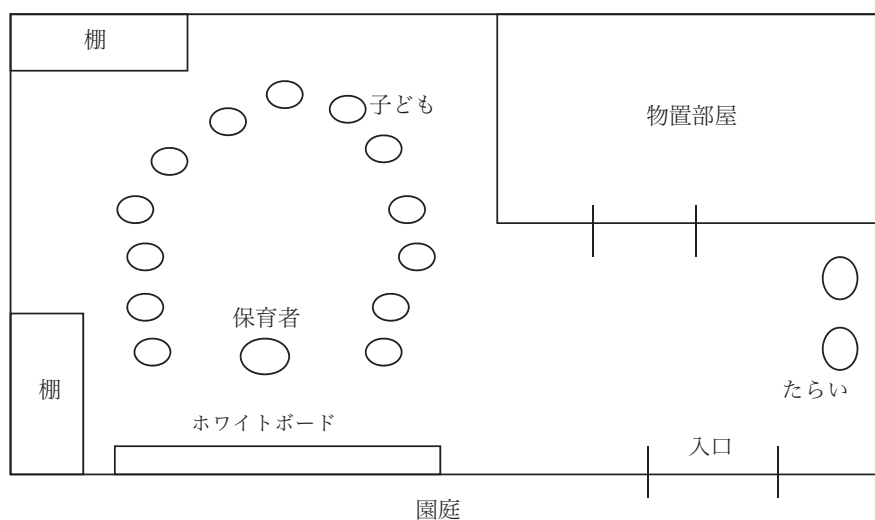


図2 タブロム村幼稚園の園舎内の環境



写真2-1 バンキアン保育所（園舎）



写真2-2 遊具の雲梯



写真2-3 調理場



写真2-4 歯ブラシ

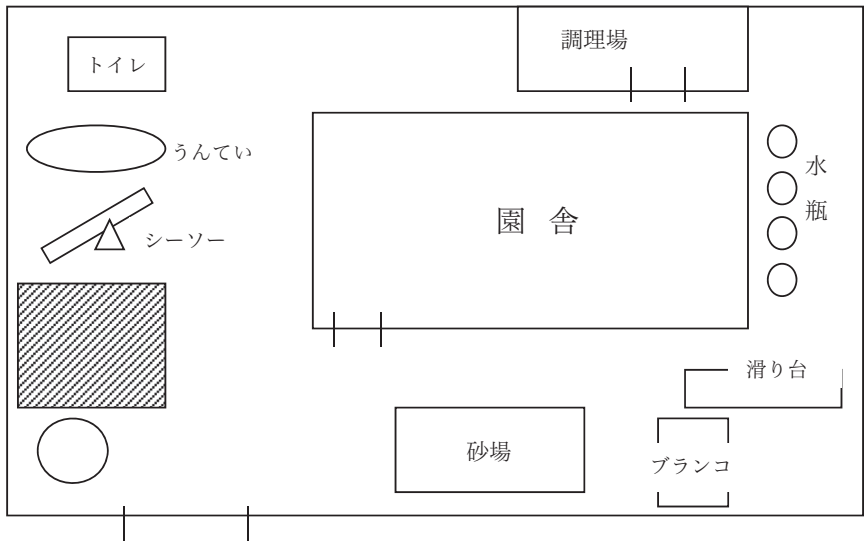


図3 バンキアン保育所の全体図

(3) 村のコミュニティ・プレスクール CPS ③：プレイタトゥ保育所

プレイタトゥ保育所の概要

住所：カンダール州カンダールスタン郡ベンキャン地区プレイタトゥ村

園児数：3歳～5歳未満の40人（定員55人）

保育者数：3名（その他に給食係が1名）

保育時間：7時～15時（保育園のため保育時間が長い）

プレイタトゥ村は、首都プノンペンから車で1時間ほどの農村地域にある村で、近くにてきた縫製工場などに両親が働きに出かけるため、子どもを安心して預ける場所が求められていた。バンキアン保育園と同様に設立30年を超える伝統と歴史のある園である。人口1,537人、家族数388世帯、0～5歳児人口は171人である。

写真3-1はプレイタトゥ保育所の全景で、図4はプレイタトゥ保育所の敷地内のスケッチである。園舎には保育室が二部屋あり、中で行き来できるようになっている。保育内容によっては年長組と年少組に分けて年齢に合った活動を行うこともある。写真3-2と写真3-3は保育室内の様子である。保育室内はたくさんの壁面制作や絵カードなどで飾られており、壁面制作として飾られている折り紙も、全て保育者が折ったものであり、保育室内の装飾は保育者が手作りすることである。また、室内には、絵本、ぬいぐるみ、ブロックなどがあり、壁にはクメール語表やクメール語のカードが飾られている（写真3-3）。園舎の入口の外には、下駄箱が2つあり、子ども達は保育室内に入るときには靴を脱いで下駄箱へしまう。

園庭には、遊具として滑り台・ブランコ・シーソー・雲梯・砂場が設置されていて、子ども達が十分に走り回って遊べるだけの広さがある。また、図4の斜線になっている部分は、屋根と柱だけの建物であり、そこで暑い日差しを避けながら戸外で遊ぶことができるようになっている。園舎の横には、水浴び用の水がめが置いてある。

この保育所の保育時間は7:00～15:00であり、昼には園内で給食係によって調理された給食が提供されている。我々が訪問した日の給食のメニューは、ご飯、野菜スープ、卵焼きで、栄養バランスの考慮された献立であった。卵焼きをご飯の上に乘せて食べるのが一般的な食べ方とのことである（写真3-4）。

我々は、子ども達に集団遊びの「ねずみとねこ」を教え、交流した。「ねずみとねこ」とは、鬼役となる猫を中心に放射状に3～4人の列を作り、列を作る子ども達は電車ごっこのように連結していて、先頭になった子がネズミ役になり、猫につかまらないように逃げるといふ鬼ごっこである。猫からうまく逃げられた子は列の一番後ろに連結し、順番にネズミ役がまわってくる。猫につかまったら猫役になるという日本の保育施設では定番の集団遊びである。「ねずみとねこ」をしたあとは、子ども達とともに給食をいただいた。

(4) 都市部のスラム街のコミュニティ・プレスクール CPS ①：ローコンバオ幼稚園 ローコンバオ幼稚園の概要

住所：プノンペン市ルッセイケオ郡チュランチョムレス地区ローコンバオ村

園児数：30人

保育者数：3人（給食係含む）

保育時間：6時30分～10時ごろ

ローコンバオ幼稚園はプノンペン市内のスラム街にある幼稚園である。この地域は、富裕層と貧困層が混在しており、貧困層の保護者のほとんどは、工事や建設現場の日雇い、バイクタクシー、小商いなどで、その日暮らしを強いられている。人口4,127人、家族数735世帯、0～5歳児人口250人である⁴⁾。

写真4-1はローコンバオ幼稚園の入口で、図5はローコンバオ幼稚園の敷地内のスケッチである。敷地の左半分が園庭になっていて、地面はコンクリートである。園庭のコンクリートのうえにゴザを敷き、子ども達はゴザの上に座って活動を行っていた（写真4-2）。敷地の右半分が園舎となっており、子ども達は靴を脱いで園舎に上がる。園舎のなかには、調理場と保育室がある。調理場にはやかんや大きな鍋がおかれ、ここで給食を作り、提供している（写真4-3）。保育室の壁面には、子どもたちの塗り絵の作品や、文字や数字のポスターや表がたくさん飾られており、カラフルで明るい雰囲気である（写真4-5）。壁には教具をしまう棚があり、地球儀やペープサートの教材や、テレビやCDデッキの電化製品も置かれていて、日本のNPO法人CYRが援助しているため、教材は不足していないように見受けられた。しかしながら、園の敷地は狭く、30人の子ども達が活動するには手狭な印象である。

子ども達は朝の6時30分前後には登園し、8時までに国歌斉唱や体操をし、おかゆを食べる。保育が始まるのは8時30分からである。制作遊びでは、塗り絵や折り紙をしているが、クレヨンや色鉛筆はNPO法人CYRから支援を受けているものの、折り紙は既に使い切ってしまったという。室内では人形遊びをしている姿も見られた。一日のプログラムのなかには、歌や踊りという音楽を通した遊びや、数字、文字、英語を学ぶ活動もあり、楽しい遊びのなかで初等教育に必要な知識や技能を身に付けられるように工夫されている。

我々は、子ども達と「爆弾ゲーム」をして交流をした。「爆弾ゲーム」とは、輪になって座り、爆弾に見立てた新聞紙をまるめた玉を音楽にあわせて順番にまわしていき、音楽が止まったところで爆弾を持っていた人が負けというゲームである。



写真3-1 プレイタウ保育所の園舎



写真3-2 保育室の内部



写真3-3 保育室の様子



写真3-4 提供されている給食

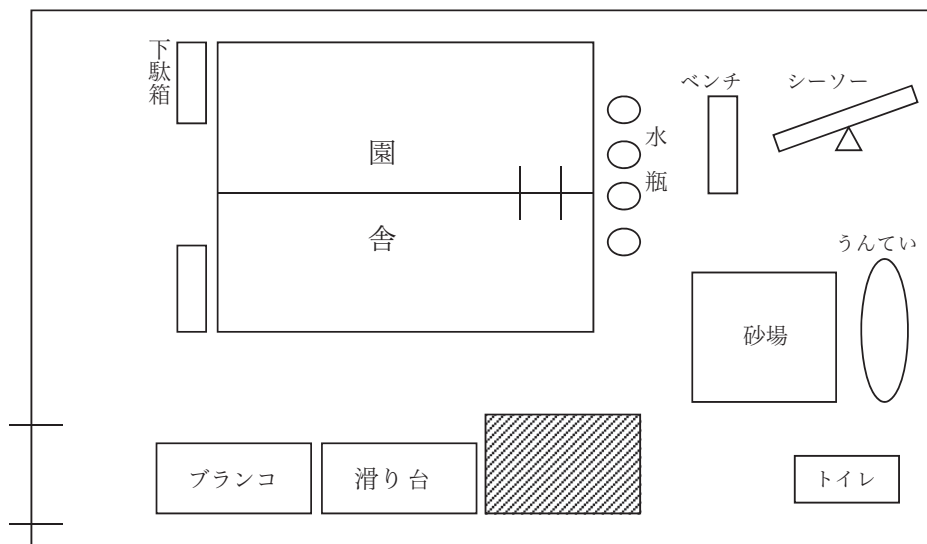


図4 プレイタウ保育所の全体図



写真4-1 ローコンバオ幼稚園の入口



写真4-2 野外で活動する子ども達



写真4-3 調理場



写真4-4 本棚



写真4-5 保育室内の壁面

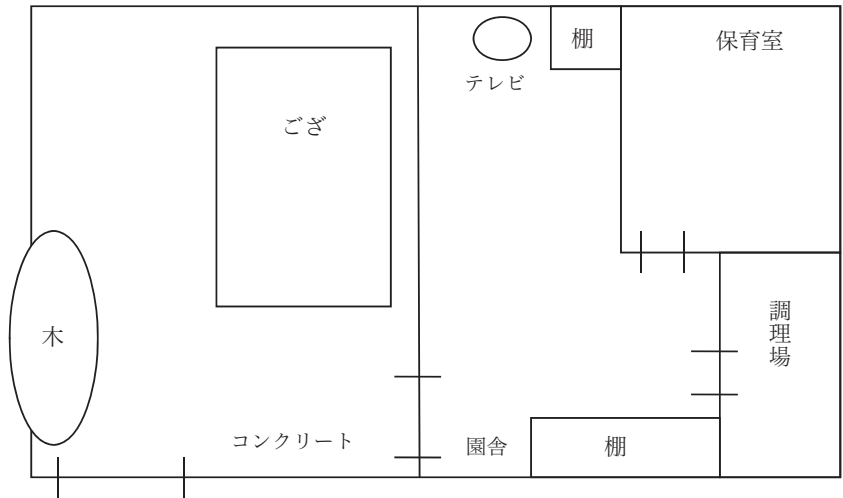


図5 ローコンバオ幼稚園の全体図

(5) 都市部のスラム街のコミュニティ・プレスクール CPS ②：スピエンクポ幼稚園 スピエンクポ幼稚園の概要

住所：プノンペン市ルッセイケオ郡ルッセイケオ地区スピエンクポ村

園児数：44人

保育者数：3人

スピエンクポ幼稚園も、プノンペン市内のスラム街にある幼稚園である。周辺地域は、富裕層と貧困層が混在しており、貧困層の保護者のほとんどは、工事や建設現場の日雇い、バイクタクシー、小商いなどで、その日暮らしを強いられている。人口6,613人、家族数1,051世帯、0～5歳児人口922人である⁵⁾。

園舎は木造2階建てであり、地面はコンクリート、屋根はトタンでできている。園庭の一部は屋根付きとなっていて、直射日光をさけながら戸外でも活動できるようになっている（写真5-1）。園庭は、子ども達がボールを蹴って遊べるほどの広さがあり、地面のコンクリートには、ペンキで絵や線が描かれている。敷地を取り囲む高い壁にも、かわいらしいペイントが施されていて、明るい雰囲気を出している（写真5-3）。保育室内の一角には、小学校のように机といすが配置され、前面にはホワイトボードも置かれており、壁面には、学習用のポスターがたくさん掲示され、小学校に接続するために、文字、数字、英語の学習にも力を注いでいる様子が見て取れる。この部屋と外側のスペースには仕切りがないため、棚を置いて壁替わりとしている。棚には、ぬいぐるみ、レゴブロック、ままごと用の玩具、絵本が置いてあり、午睡用のまくらもあった（写真5-5）。園舎のなかは折り紙の装飾が施されており、これらはすべて保育者が作って飾り付けたものである（写真5-4）。

保育室の一角には、子ども達の名前入りの歯ブラシがかけてあるスペースがあり、食後の歯磨き指導も行われている。

この幼稚園でも、園内で調理したおかゆと給食を提供しているが、保育者によると、子ども達の栄養が十分ではないので、もっとよい食べ物を提供するために支援をしてもらいたいということであった。

(6) 都市部の小学校併設幼稚園：トロピエンスバイ幼稚園 トロピエンスバイ幼稚園の概要

住所：プノンペン市サエンソック郡プノンペンタメイ地区トロピエンスバイ村

園児数：70人

保育者数：1人

保育時間：午前部：7時30分～10時。午後部：13時30分～16時。現在は午前部のみ開園。

この地域には、開発が進む中心部に住んでいた大勢の貧しい人たちが、強制的に退

かされて住んでいる。村から「スラムに住む子ども達も通園して構わないので幼稚園を開設してほしい」と要請があったため開園した非常に珍しい経緯をもつ幼稚園のことである。人口1,550人、家族数347世帯、0～5歳児人口212人である。

トロピエンスバイ幼稚園は、小学校併設の幼稚園であり、トロピエンスバイ公立小学校の1教室を借り、カンボジア教育省とNPO法人CYKが協力して5歳児クラスを開設したのが始まりである。小学校としては「就学前クラス」という位置づけである。時折、小学生が窓から顔を出し、幼稚園の様子に興味深そうにのぞき込んでいた。

以前は、午前と午後の2部制で保育を行っていたが、現在は保育者が確保できず、午前中の3時間だけ開園している状態である。1人の保育者で午前部と午後部を担当することも可能ではあるが、その場合は午前部の手当てだけしか支給されないのだという。そのため、午前部で1人の保育者が70人もの園児を受け持つという状態である。1人で70名もの園児の保育を行うことは非常に困難なことであり、毎日、一日中、大きな声を出しているの、声がかれてしまうという。読み聞かせの際は、なるべく文字の少ない絵本を選んで読んでいる。文字数が多いと声を出している時間が長くなり、声が出なくなってしまう、また、子ども達の集中力が続かないからだという。

教室では、机をコの字に並べ、中央にひとつ大きめの机を配置し、子ども達はそこに群がるように着席している。写真6-2からも分かるように、子ども達は窮屈そうな様子で、教室内は飽和状態である。子ども達の荷物を収納するロッカーがないため、荷物は椅子の背にかけることになっており、それがさらに教室を窮屈にさせている。

教室の壁面には、交通安全のための標識の表や、信号についてのポスター、挨拶の仕方や数の数え方などが絵で描かれたポスターがたくさん掲示されている（写真6-3と写真6-4）。就学前教育として、文字や数字だけでなく、交通安全や生活習慣についても教えていこうとする方針を見て取ることができた。

園児の人数が多いのに対して、教具や遊具は十分ではなく、さらにNPO法人CYRの支援でボールを寄贈してもらったものの、小学校校長が鍵付きの倉庫に収納してしまったため、園児が利用できない状況であるということであった。

なお、幼稚園も小学校も資金不足が深刻であり、少ない資金を補うために、駐輪場を有料にして、自転車を通う子ども達からお金を徴収したり、学年を進級するために必要な「進級試験」を有料にしたりして、学校の資金不足を補っている。ただし、進級試験については貧困家庭の子どもは進級試験を受けられず、中途退学したり、卒業できなかったりするので問題になっているという。

また、小学校の敷地内に駄菓子屋があり、小学校の教諭の妻が商売しているとのこと、そこで得られる収益を生活の足しにしているとのことであった。



写真5-1 スピエンポ幼稚園の全景



写真5-2 保育室の様子



写真5-3 園庭の壁に描かれた絵



写真5-4 保育室の飾り



写真5-5 お昼寝用枕

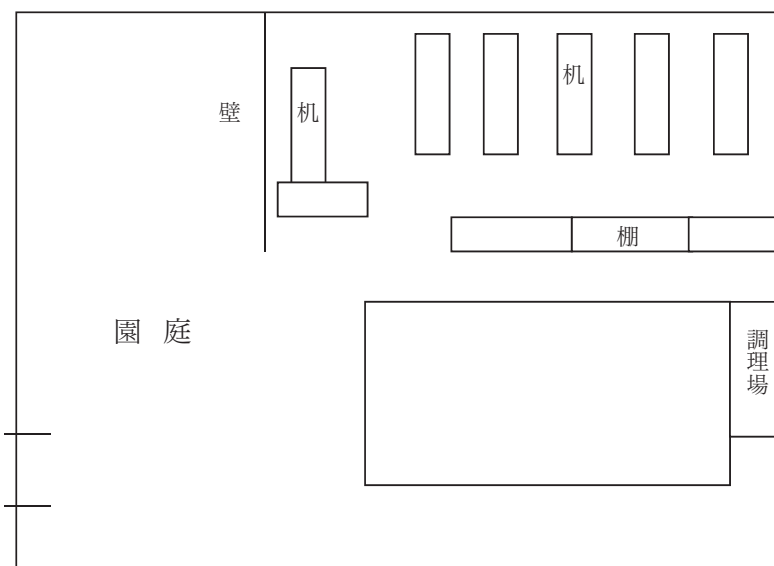


図6 スピエンポ幼稚園の全体図



写真6-1 トロピエンスバイ幼稚園



写真6-2 保育室と子ども達の様子



写真6-3 交通ルールを教えるポスター



写真6-4 壁面の様子

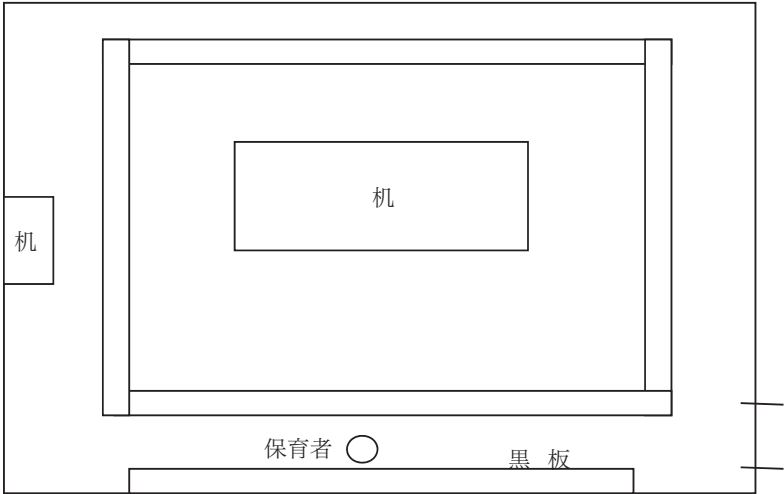


図7 トロピエンスバイ幼稚園の保育室内部の配置図

3. カンボジアと日本の保育の比較

ここでは、カンボジアの保育施設を訪問し、保育者に聞き取り調査をして得られたデータと、カンボジア教育省幼児教育庁の元署長を務めたヨス・オー・アルンさんに聞き取りをして得られたデータをもとに、カンボジアと日本の保育の比較を行っていききたい。

表1は日本とカンボジアの保育制度の概要についてまとめたものである。日本に幼稚園と保育園があるように、カンボジアにも幼稚園と保育園があり、幼稚園は就学前教育を行う場所であり、保育時間は短時間であるのに対し、保育園は就学前教育とともに「親の保育に欠ける時間の生活の場」でもあるため、保育時間は親の出勤する時間よりも早い6時30分ごろから、15時（場所によっては16時まで）と長い。ただし政府が運営する保育園はなく、カンボジアにある保育園はすべてNGO／NPOや地域コミュニティが運営するコミュニティ・プレスクールCPSである。

表1 日本とカンボジアの保育制度の比較

	日本	カンボジア
名称の使い分け	保育園：0歳児の乳児から小学校就学の年を対象とする児童福祉施設。厚生労働省の管轄下、「保育所保育指針」に基づく。 幼稚園：満3歳から小学校就学の年を対象とする教育施設。文部科学省の管轄下、「幼稚園教育要領」に基づく。	幼稚園…就学前教育。「教える」要素。 保育園…就学前教育および保育。 教える＋給食＋水浴び＋午睡 ※教育省の決まりで、どちらも3歳から5歳未満の子ども。 ※現在政府が運営する保育園はなく、幼稚園のみ。現存する保育園は、NGO／NPO団体が運営する保育園。
保育者の人数	規定あり。 0歳児 3人に保育者1人 1,2歳児 6人に保育者1人 3歳児 20人に保育者1人 4,5歳児 30人に保育者1人	規定あり。 3歳児 15人に保育者1人 4歳児 18～20人に保育者1人 5歳児 20～25人に保育者1人 ※保育者不足で定員オーバーになり、規定が守られていない現実がある。
保育時間	保育園 8：30～16：30 (延長保育あり7：00～19：00) 幼稚園 9：00～14：00 (延長保育あり8：00～16：00) ※所により、もっと遅くまで開園する園あり。	公立幼稚園 7：00～10：00(10：30)の3時間のみ。 地域保育園 6：30～15：00(16：00) ※一日中保育している園はない。

子どもの人数に対する保育者の数についても規定があり、3歳児は15人に保育者1人、4歳児は18～20人に保育者1人、5歳児は20～25人に保育者1人となっており、日本では3歳児は20人に保育者1人、4歳と5歳児は30人に保育者1人であるのに比べても、手厚く保育者が配置されているはずである。しかしながら、カンボジアでは保育者の絶対数が不足しており、規定が守られていない現実がある。例えば、先に紹介したトロピエンスパイ幼稚園では1人の保育者が70人もの5歳児の保育をしていた。

表2は日本とカンボジアの保育内容の概要についてまとめたものである。クラス分

表2 日本とカンボジアの保育内容の比較

	日本	カンボジア
クラス分け	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として学年別クラス ※特色ある保育として「縦割り保育」を採用する市町村や園もある。 ※幼稚園は3年保育の場合、年少（3歳）、年中（4歳）、年長（5歳）と呼称する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園では、日本と同じように年少、年中、年長クラスに分かれている。 ・CPS はほとんど3～5歳児の混合クラス ※保育室が1つしかない、保育者が1人しかないなどの環境面の制約から混合クラスにせざるをえない園が多いため。 ※保育室と保育者が複数あることにより、年齢別に保育を行うこともある。 ※小学校併設の幼稚園で5歳児のみ受け入れている場合は、幼稚園というよりも、小学校の「就学年クラス」と位置づけられている。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園では、自園調理の給食を提供するところとお弁当持参のところがある。 ・保育園では、自園調理の給食を提供する。3時前後に午後のおやつを提供する。 ・幼稚園・保育園ともに10時ごろに牛乳を提供するところが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自園調理の給食が提供される。貧困地域では子どもの大切な栄養源となる。 ・早朝から預けられる子どもも多く、朝、おかゆが提供されるところもある。 ※栄養補給のためのおやつ（玉子や豆乳）が月に2回、提供されるところもある。 ※小学校併設幼稚園では、保育時間が午前中のみのため、給食は提供されない。おやつとして月に2回、豆乳が提供される。 ※給食費は、毎日2500リエル（60円程度）
生活習慣指導	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い・うがい・歯磨き・排泄 午睡の習慣 ※毎月、身体測定。 ※定期的に健康診断と歯科検診を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の清潔（水浴び）と歯磨きの指導。 ※身体の清潔や基本的な衛生については、親が十分に世話できていない状況である。 ※英語や算数などの指導中心で、生活習慣については十分な指導ができていない。 ※CYR 支援園では身体測定と歯磨き指導をしている。月～木は午睡もする。金曜日は午前だけの保育のため午睡なし。

けについては、日本の多くの保育園・幼稚園が学年制をとっているのに対し、カンボジアの公立幼稚園では学年制をとっているところもあるものの、コミュニティ・プレスクール CPS のほとんどが3～5歳児の混合クラスで保育を行っている。これは異年齢保育という意図的なものではなく、保育者が1名しかいない、保育室が1室しかないという物理的環境によるものである。

給食については、幼稚園では保育時間が午前中の3時間程度であることから提供されないが、保育園では朝食のおかゆ、昼食の給食、そして午後には月2回程度であるものの、ゆで玉子・豆乳・お菓子が提供されており、家庭が貧しくて十分な食事を摂取できていない子ども達にとって重要な栄養源となっている。

生活習慣指導については、日本のNPO法人CYRが支援している幼稚園と保育園を見学したことから、日本の幼稚園や保育園と似たような、身体の清潔や歯磨きなどの衛生指導、定期的な身体測定と健康診断が行われていた。家庭が貧しくて、不潔な服装や身体で登園する子ども達が多いなかで、子ども達に身体の清潔や歯磨きなどの衛生指導を行うことで、貧しい村やスラム街の人々にはなかった「新しい良い習慣」を根付かせようと努めているのだという。

表3は日本とカンボジアのディリープログラムの比較である。公立幼稚園では、教

表3 日本とカンボジアのディリープログラムの比較

日本の例		カンボジア (村の CPS)	
時間	活動	時間	活動
8:30	○登園	6:00	○保育者出勤
9:00	○戸外遊び		・外掃除と中掃除
	・滑り台・ブランコ・鉄棒・のぼり棒・かけっこ・砂遊び等		・保育準備、市場へ買い物
10:00	○朝礼、朝の体操	7:00	○徐々に登園
10:15	○クラス活動	7:30	・体操
	・制作遊び（折り紙、お絵描き）	8:00	・おかゆを食べる
	・粘土遊び		・国歌斉唱
	・ブロック遊び	8:30	○曜日ごとのカリキュラム
	・ままごと		月曜日：歯磨き指導、紙芝居、絵本を見る
12:00	○給食		火曜日：文字遊び、歌、踊り、お絵描き
12:45	○クラス活動		水曜日：数字遊び、美術、工作、折り紙
	〈室内遊び〉		木曜日：散歩、自然観察、葉っぱで物づくり
	・制作遊び（折り紙、お絵描き）		金曜日：保健衛生、環境整備、洗濯、掃除
	・粘土遊び	9:30	○曜日ごとのカリキュラム
	・ブロック遊び		月曜日：外遊び
	・ままごと		火曜日：ボール遊び
	〈戸外遊び〉		水曜日：CYK 教材
	・滑り台・ブランコ・鉄棒・のぼり棒・うんてい・かけっこ・砂遊びなど		木曜日：自由遊び
	(乳児…午睡)		金曜日：CYK 教材
15:00	○おやつ	10:30	○水浴び
15:30	○順次降園	11:00	○手遊び・ゲーム他、給食、歯磨き
		12:00	○午睡（先生は園児の健康チェック、記録）
			○自由遊び、歌・詩、などなぞ遊び
		14:00	○帰りの会
		14:45	・おやつ時間
		15:00	○整列、帰宅（～15:30）

育省によって毎日のディリープログラムが詳細に決められており、村やスラム街のコミュニティ・プレスクール CPS でもそれに準じる形で、支援している NGO/NPO がディリープログラムを定め、保育者はそれに従いながら保育を進めていく。これは、個々の保育者が自分自身で保育を構成する十分な専門性をもっていないため、このような仕組みにせざるをえないのだという。表4は日本とカンボジアの保育プログラムを比較したものである。日本の NPO 法人 CYR が支援している幼稚園と保育園を見学したことから、保育プログラムの内容は制作遊び、集団遊び、リズム遊びとも、日本の園とよく似通っている。ただし、カンボジアの幼稚園と保育園は就学前教育の要素が強く、小学校との接続を意識しているため、勉強面の取り組みは日本よりも充実している。

表5は日本とカンボジアの年間行事の比較である。日本の幼稚園と保育園は年間を通してさまざまな行事を行っているのに対し、カンボジアは行事が少ない。カンボジアは四季がなく、日本に比べて四季折々の風習や行事が少ないうえに、日々の保育で精一杯で、特別な行事の指導ができない状況であるためである。

表4 日本とカンボジアの保育プログラムの比較（△はカンボジアの特徴的活動）

	日本	カンボジア
制作遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・お絵描き ・折り紙 ・切り絵 ・粘土 ・工作（空き箱を使って作品作り等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・塗り絵 ・お絵描き ・折り紙 △葉っぱで物作り（ココナッツの葉で眼鏡・時計・指輪を作る。バナナの葉でカバンを作る等）
集団遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・各種鬼ごっこ（缶けり等含む） ・かくれんぼ ・だるまさんがころんだ ・ドッジボール ・大縄跳び ・椅子取りゲーム ・ハンカチ落とし（爆弾ゲーム含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種鬼ごっこ ・かくれんぼ ・大縄跳び ・椅子取りゲーム ・ハンカチ落とし
リズム遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・リトミック ・ダンス（踊り） ・楽器 ・歌（手遊び） ・体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス（踊り） ・歌（手遊び） ・体操 △詩
勉強	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな ・英語 ・体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字 △数字 ・英語

表5 日本とカンボジアの年間行事の比較

	日本	カンボジア
行事	<ul style="list-style-type: none"> ・入園式（4月） ・親子遠足（5月） ・運動会（10月） ・展覧会（11月） ・生活発表会（2月） ・卒園式（3月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの日」（6月1日） 保護者と保育園運営員会の人々が来園し、子どもとゲームをして交流する。 ・卒園式（9月）
園内行事	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕まつり（7月） ・クリスマス会（12月） ・お餅つき（1月） ・節分（2月） ・お別れ会（3月） ・演劇鑑賞会（指人形劇など） ・毎月のお誕生会 ・園外保育&遠足 	（保育者向け行事） <ul style="list-style-type: none"> ・保育研修 ・保育者ミーティング ※四季がなく年間行事も少ない。 ※日々の保育で精一杯な現状。
保護者関係	<ul style="list-style-type: none"> ・保育説明会（4月） ・個人面談 ・保育参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会
健康関係	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断（年に2回） ・歯の検診 ・身体測定（毎月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体測定（毎月） ・歯磨き指導

おわりに

カンボジアにはまだ幼稚園や保育園に通うことができない子ども達が多数存在する。それは、貧しくて給食費や保育料を支出することができない親が多く、また、親

が教育を受けていないために子どもを幼稚園や保育園に通わせる意義が理解できないこと、そして、そもそも近くに通うことのできる幼稚園や保育園がないことが原因になっている。しかしながら、我々が訪問した幼稚園や保育園に通う子ども達は、笑顔でイキイキと園生活を送っていた。そこでは、家庭ではできない集団遊びや、文字や数字の勉強、身体の清潔や歯磨きなどの新しい習慣、栄養満点でバランスの取れた給食などに触れることのできる、幼児にとってはかけがえのない環境であるからだろう。少しでも多くの子ども達にこのような環境が与えられることを願ってやまない。

■注

- 1) 石川佳歩・安藤美琴・山田真紀 (2018) カンボジアの保育の現状と課題(2)—国立養成学校に通う学生と保育施設で働く保育者へのインタビュー調査から—, 梶山女学園大学『教育学部紀要』11.
- 2) 三輪千明「カンボジアの幼児教育—途上国農村部におけるアクセス拡大の方法と課題—」Child Research Net, 2014年7月。<http://www.blog.crn.or.jp/lab/01/56.html> (平成29年12月1日接続確認).
- 3) 『幼い難民を考える会事業概要』2015年9月より.
- 4) 2008年度 現地 NGO 団体「ケメラ」の調査より.
- 5) 2008年度 現地 NGO 団体「ケメラ」の調査より.